

因果物語二目録

- 一 姫て教をい女主の女房とありてありき
- 二 人よ金かゝる信死して早妻せられ
- 三 金に執心をして死に來り
- 四 ち屋敷とまかみりて代に死に
- 五 且知りてと争ひて死に
- 六 女乃て其をむと問答を
- 七 怪食する人死してうに
- 八 乞食と切ためしむ
- 九 盲目死して福人の子
- 十 善く養生の日と
- 十一 師の房死して

因果物語

目録

一

- 十二 ありてはしとてかたむけしつらしき
- 十三 念佛志の捨りゆ像の出
- 十四 人の身とうきてゐるにみづあひ
- 十五 学志の傷ふこと女とありし度
- 十六 母の虫果にまゐる子と生る月
- 十七 幼はとありしきめを討あつし
- 十八 物也とわづらひし
- 十九 金と徳とを志果しき
- 二十 人とうきし女死して亡果し成るあひ
- 廿一 蓮院の音給ふりて夫あの子まされ
- 廿二 海らひん死しては舞うとま
- 廿三 代官死して人まづと物はとま

因果物語の二

一 姑て教せし女家の如屋ととりこゝる

流筋よりある宰の尾筋を古屋よりとりけり

日らねありてなりあひつて川とそこの河女のを

してあまりよまびく家何やらむとよいぶち

けきえどぬのこいゆらぬとまらしてられあ

らよあせしつまたまらふ人ありいあくおそ

しうり多れをあらがえと家とつけてあんな

ちをいふとまればおの古屋のうらよはられ

よのあはれぬとまらしておの死といふ

しうり多れをあらがえと家とつけてあんな

ちをいふとまればおの古屋のうらよはられ

よのあはれぬとまらしておの死といふ











とおしそつとつひきつた。その日のつれづれのつらみのつらみ  
 まいどりの一五日つれづれひきつたまよひのつらみしつらみ  
 中後とおめつと九日つれづれひきつたまよひのつらみしつらみ  
 後つとつらみがつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ  
 おつとつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ  
 けつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ

又 長船と後ひらるをも相船けつらみ

東之つらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ  
 つらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ  
 大洞とつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ  
 つらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ  
 つらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ  
 つらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみつらみ

舟のつらみつらみ



舟のつらみつらみ





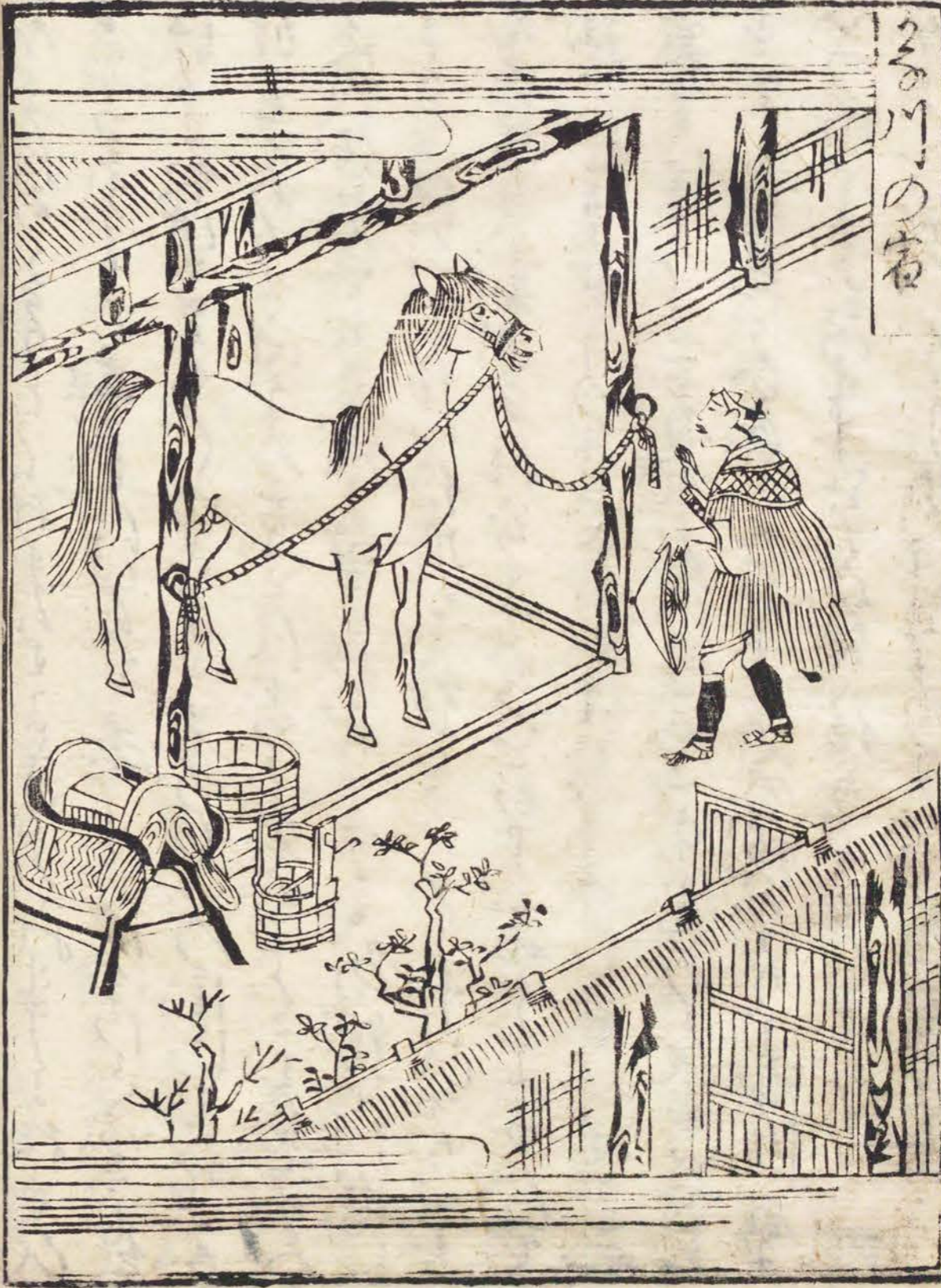












十五 学志の信ふりたるありける事

新判はアある法林乃学信り。其お屠とて教るま  
事あり。言懐くふらごむり。は物故年の言清  
派り入して法林といふを。徳今やまいたうとじ  
候。これぞれあは信り初り。めておまのあは者。の  
まてゆり。喜まひて。所。法をす。や。い。信。傷。を  
ま。の。あ。事。自。り。ま。て。や。し。く。事。後。て。湯。を  
い。ろ。と。ろ。よ。だ。ら。ま。化。る。畢。れ。お。ら。て。せ。り。取。ら。ん。と  
ま。し。ら。し。ま。り。入。り。智。恵。す。く。と。法。を。ま。み。ふ。し。の。ま。う。せ  
て。馬。純。才。一。乃。女。と。ま。り。の。あ。く。繁。と。も。や。し。し。酒。を  
の。世。屋。と。ま。り。志。ろ。に。東。磨。山。の。学。を。お。ま。人。同。乃。也  
酒。を。と。ま。り。乃。酒。を。ま。ま。り。て。酒。の。こ。ろ。と。は。世。屋

一目見ても彼とあつてはさういふ傷なかりとぞいふ  
ては細くあつてはさういふ傷なかりとぞいふ  
写されたりゆへにさういふ傷なかりとぞいふ  
孝文公の御代に生れし也。牛島の宗廟院に生れし  
乃ちさういふ傷なかりとぞいふ。又曹洞の  
の遍余の傷もさういふ傷なかりとぞいふ。又老  
のさういふ傷なかりとぞいふ。又老  
をその証なりとぞいふ。又老

因 母の亡き三年の暮子と生る月一書

紅伊の書ありとぞいふ。又老  
て母の死なり。もれとぞいふ。又老  
しとぞいふ。又老  
あつてはさういふ傷なかりとぞいふ  
日比守て居るなりとぞいふ。又老  
が三年の暮りとぞいふ。又老  
十七分り集けり。とぞいふ。又老  
し。とぞいふ。又老  
か。とぞいふ。又老

十七 仙居とありて野ありとぞいふ

仙居八層とぞいふ。又老  
救多のふとぞいふ。又老  
社氏のふとぞいふ。又老  
とぞいふ。又老  
は。とぞいふ。又老



勢別 業のみの。仏服院といふ事。ちかふの事あり。げまの  
 信持。寛永十八年。一死。まゝ。信持。後の信持。寛永夜  
 一。いふ。おま。まり。眠。意。よ。た。い。こ。ま。つ。の。あ。る。と。あ。う。た。て  
 有。り。ま。す。一。字。日。の。り。也。が。り。事。具。と。う。り。く。これ。の。終。り  
 う。い。く。我。付。も。あ。り。又。一。こ。何。と。あ。り。終。り。う。あ。り。い  
 じ。ま。ふ。い。う。く。げ。古。終。り。ま。あ。と。付。ら。る。い。う。こ。ゆ。子  
 細。り。ぶ。一。と。て。紙。と。や。づ。り。し。これ。の。金。子。め。あ。り。の。と  
 な。り。ら。げ。金。子。と。り。く。う。り。く。ま。あ。り。け。ま。は。ぞ。ね。り  
 二。と。び。事。ぞ。と。仏。服。院。の。物。大。田。結。言。師。う。こ。れ。は。り  
 二十 人。い。う。し。ら。ふ。事。は。一。と。ま。あ。り。成。る。事。一  
 信。持。信。和。お。う。り。信。持。何。と。い。ふ。人。は。あ。り。は。い。ひ。乃。下。年。八  
 九。業。の。と。い。ふ。信。持。お。ま。り。事。あ。り。一。と。い。ふ。の。あ。り。と。ま。あ。り。い。ひ。乃。

八。家。給。は。あ。ん。ら。う。ら。び。一。と。い。ひ。付。て。せ。じ。び。一。と。い。ひ  
 あり。ち。つ。も。あ。り。あ。り。か。の。女。あ。あ。り。一。と。い。ひ。つ。と。い。ひ。め  
 つ。あ。り。死。多。う。り。比。し。き。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 あ。り。う。り。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 と。と。あ。り。の。ゆ。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 せ。先。た。わ。ま。い。ま。い。ま。い。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 地。づ。の。兄。と。書。て。せ。先。た。わ。ま。い。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 う。あ。り。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 又。事。り。て。せ。先。た。わ。ま。い。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 口。こ。う。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事  
 こと。し。だ。う。り。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事。一。と。い。ひ。事

臣請

卷二

世 遠徳の善相中ありて大なる子に生れし事  
初めは佐伯の御影にありし事あり。寛永十九  
年。はの九月廿二日に死せられしなり。年七十九  
也。是よりして遠徳の善相よりくるといふはゆかりし。堂  
寺とて建立せし。是よりして沈の年。西園よりして又  
万石の大名の子より生れし事あり。中よりお生れの  
名を名実たりし。書付あり。この人の善相をいふ事あり  
て。かくしう知らざる。おふりて佐伯よりくるといふ事あり  
佐伯の町人たよりし。知れりし。作原のありし。おふりし。事  
あり。おふりし。事あり。おふりし。事あり。おふりし。事あり。

廿二 徳の善相中ありて大なる子に生れし事

徳の善相中ありて大なる子に生れし事  
初めは佐伯の御影にありし事あり。寛永十九  
年。はの九月廿二日に死せられしなり。年七十九  
也。是よりして遠徳の善相よりくるといふはゆかりし。堂  
寺とて建立せし。是よりして沈の年。西園よりして又  
万石の大名の子より生れし事あり。中よりお生れの  
名を名実たりし。書付あり。この人の善相をいふ事あり  
て。かくしう知らざる。おふりて佐伯よりくるといふ事あり  
佐伯の町人たよりし。知れりし。作原のありし。おふりし。事  
あり。おふりし。事あり。おふりし。事あり。おふりし。事あり。





